

2019年度(公社)日本地すべり学会 第58回研究発表会及び現地見学会



日 時

令和元年 8月20日(火) 18:00~20:00
(受付・入場 17:30~)

会 場

KKRホテル熊本 2F (五峯・城彩)

〒860-0001 熊本市中央区千葉城町3-31 TEL 096-355-0121 (代表)

定 員

先着300名

入場無料

**事前申込
不要**

第1部

18:00~19:00

演題：「近年の気象災害と、災害から身を守るために」

講師：防災WEST (気象予報士有志団体) ^{はや}早田 ^{ほたる} 蛍



(一社)日本気象予報士会所属。福岡大学経済学部在学中の2012年に気象予報士を取得。

『大きな災害はいつか必ず起きる。しかし普段からの備えや知識があれば命を守ることができる』をモットーに、気象予報士からできる防災を行っている。

気象庁が行っている防災教育「大雨防災ワークショップ」の普及や、子どもたちにお天気教室・気象防災講演・小学校の避難訓練の監修を行う。

2019年6月、(一社)日本気象予報士会の石井賞を受賞。

第2部

19:00~20:00

演題：「熊本地震からの復旧・復興」

講師：熊本大学 名誉教授 ^{きた その よし と}北園 芳人



熊本大学名誉教授。熊本大学在職中より国交省の九州地方整備局緊急災害対策派遣DOCTOR等を務め、またNPO法人熊本自然災害研究会の理事長も務める。

退職後の2016年には未曾有の熊本地震が発生し、熊本地震災害現地調査団団長をはじめ、落橋した阿蘇大橋地区の技術検討会委員長、さらには、南阿蘇村復興むらづくり計画策定委員会委員長など、十近い委員会の委員長を務め、震災の調査から復旧・復興に現在も広く携わっている。著書に「九州・沖縄の特殊土地盤の設計と施工」や「これから防災を学ぶ人のための地域防災学入門」等多数。

主催：公益社団法人 日本地すべり学会

後援：林野庁九州森林管理局、農林水産省九州農政局、国土交通省九州地方整備局
熊本県、(一社)斜面防災対策技術協会九州支部
九州地区地すべり防止工事士会、(一社)熊本県地質調査業協会
協賛：(一社)斜面防災対策技術協会九州支部、(一社)熊本県地質調査業協会

お問い合わせ先

2019年度(公社)日本地すべり学会
第58回研究発表会及び現地見学会実行委員会事務局
〒860-0833 熊本市中央区平成3丁目16番13号
(株)アイエスター内 (担当:上妻 良昌)
TEL:096-285-5177 FAX 096-285-5188
e-mail annualmeeting@landslide-soc.org
大会ホームページアドレス <http://www.landslide.soc.org>



講演概要



演題:「近年の気象災害と、災害から身を守るために」

講師: 防災WEST はや た ほたる 早田 蛭 (日本気象予報士会所属)

近年、気象災害が深刻化しており、中でも大雨災害は毎年のように日本のどこかで甚大な被害をもたらしている。

昨年の「平成30年7月豪雨」では西日本を中心とした広範囲に大雨が数日間降り続いたことにより、死者行方不明者数200名を超える平成最大の豪雨災害となった。気象庁は大雨特別警報を11府県に発表し、自治体からは避難に関する情報が出され、多くの場所で事前に警戒を呼び掛けた。しかし多くの人々の避難に繋がらず被害は拡大した。

ここ数十年で遥かに気象予報の精度が向上し、情報は誰でもどこでも簡単に手に入れることができるようになった。にもかかわらず、なぜ被害は拡大してしまったのだろうか。その時の気象状況や地域の特徴などから探っていく。

そして多発する大雨災害から身を守るために、私たちはどのようにしたら良いか。最新の気象情報の活用方法や行動のタイミングなどを、実際に助かった人のエピソードを交えながら説明します。



演題:「熊本地震からの復旧・復興」

講師: 熊本大学 名誉教授 きた その よし と 北園 芳人

平成28年4月14日(金)午後9時26分の前震(マグニチュード6.5)では日奈久断層帯の高野-白旗区間が活動して発生、28時間後の16日(土)午前1時25分の本震(マグニチュード7.3)では布田川断層帯の布田川区間が活動と、立て続けに大きな揺れに熊本地方は見舞われました。益城町では前震・本震と震度7を二度、西原村でも本震時に震度7を記録しました。本震時に震度6強を記録した市町村は南阿蘇村、菊池市、宇土市、大津町、嘉島町、宇城市、合志市、熊本市に及びました。一連の地震活動で震度7を2回観測したのは気象庁が「震度7」の階級を定めて以降初めてでした。また余震の回数が多いことも熊本地震の特徴といえ、震度1以上の地震は3年間で4000回を超えています。日奈久断層帯と布田川断層帯が会う益城町では震度7を2回も記録し、被害も甚大なものとなりました。本震で動いた布田川断層は阿蘇カルデラの外縁部までは知られていましたが、今回の地震でカルデラ内部にも連続していることが判明しました。そのため、阿蘇カルデラ周辺部から内部にかけて大きな被害が発生し、熊本と阿蘇を結ぶ交通インフラが一時的に途絶し、大きな障害となりました。現在では応急復旧で何とか交通路は確保されていますが、いまだに本復旧には至っていません。

そこで今回は、地震後3年を経過した復旧・復興の進捗状況を被害の大きかった箇所を中心に現況と今後の見通しについて話題を提供したいと思います。

日時 令和元年 8月20日(火) 18:00~20:00 (受付・入場 17:30~)

会場 KKRホテル熊本 2F (五峯・城彩)

〒860-0001 熊本市中央区千葉城町3-31 TEL 096-355-0121 (代表)

事前申込
不要

入場無料

